

\*NATS/ S05

97-173364/16

\*JP 09038130-A

Eye mask for visual acuity - has massage pressure point press body which stimulates specific areas in eye periphery

NATSUMEDA K 95.07.26 95JP-209342

P32 P33 P34 (97.02.10) A61F 9/04, A61II 39/04, A61N 5/06

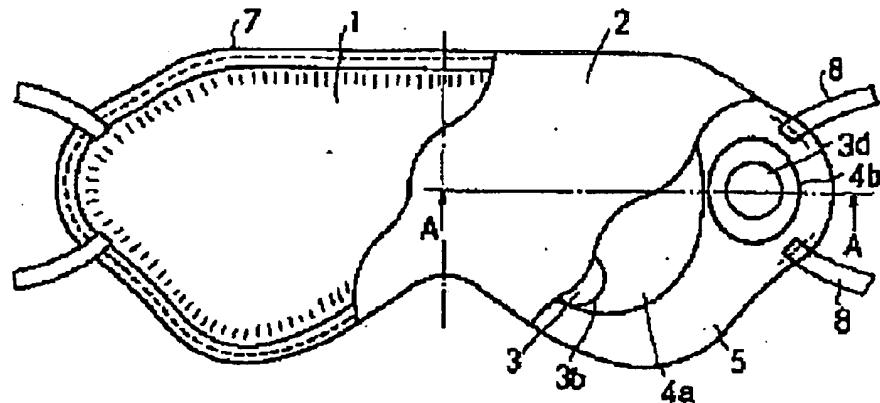
The mask has a massage pressure point press body that massages and stimulates specific area of the eye periphery, on which a front cloth is provided that is air permeable. An infrared ray is emitted from the inner body of the mask.

ADVANTAGE - Improves visual acuity and removes eyestrain, simultaneously.

(4pp Dwg.No.1/5)

N97-143221

S05-A03A1 S05-A07



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-38130

(43)公開日 平成9年(1997)2月10日

(51)Int.Cl.	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 61 F 9/04	3 0 0		A 61 F 9/04	3 0 0
	3 4 0			3 4 0
A 61 H 39/04			A 61 H 39/04	M
A 61 N 5/06			A 61 N 5/06	A

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平7-209342

(22)出願日 平成7年(1995)7月26日

(71)出願人 595118397

森田 欣三郎

福山市駅家町万能倉1358の12

(72)発明者 森田 欣三郎

福山市駅家町万能倉1358の12

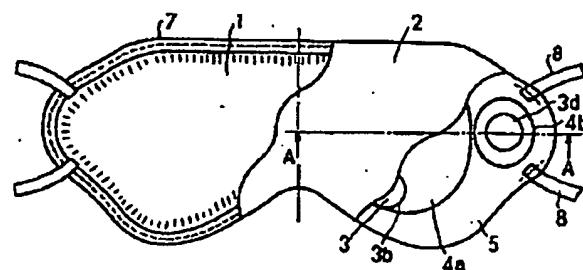
(74)代理人 弁理士 吉村 順治

(54)【発明の名称】 アイマスク

(57)【要約】

【課題】 普通に着用するだけで眼精疲労の回復と同時に視力を改善することができるアイマスクを提供すること。

【解決手段】 体内より放射される赤外線を反射するシート部材と、眼の周辺の特定のツボを押圧刺激するツボ押圧部材とを備えたことを特徴とする。



(2)

特開平9-38130

**【特許請求の範囲】**

【請求項1】体内より放射される赤外線を反射するシート部材と、眼の周辺の特定のツボを押圧刺激するツボ押圧部材とを備え、眼精疲労の回復とともに視力を改善させるようにしたことを特徴とするアイマスク。

【請求項2】眼およびその周辺に当接する吸湿性の当て布地と、該当て布地の背面に配置され、体内より放射される赤外線を反射するシート部材と、該シート部材の背面に配置され、眼の周辺の特定のツボを押圧刺激するツボ押圧部材と、通気性を有する表布地とを備え、眼精疲労の回復とともに視力を改善させるようにしたことを特徴とするアイマスク。

【請求項3】シート部材が、アルミ箔、またはアルミ蒸着フィルム、またはアルミ蒸着フラットヤーン織成物であることを特徴とする請求項1または2記載のアイマスク。

【請求項4】ツボ押圧部材が、通気性を有する軟質の合成樹脂発泡体で形成され、ツボ押えが晴明、四白、絲竹空、太陽の4つのツボに対応する位置に設けられていることを特徴とする請求項1または2記載のアイマスク。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、視力を改善するためのアイマスクに関する。

**【0002】**

【従来の技術】人体の体温を熱源とする磁鉄鉱入り遠赤外線輻射体を用い、眼球及びその周縁に遠赤外線を輻射し、更に同時に両目頭、両側頭部の経絡上のツボを押圧、刺激して、血行を良好にし、神経、筋肉を弛緩させて眼精疲労を取り、自然に睡眠に誘う磁鉄鉱入り遠赤外線輻射アイマスクは、従来より知られている。(例えば、実公平3-25799号公報参照)

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来技術は、磁鉄鉱入り遠赤外線輻射体により、眼およびその周辺と両目頭、側頭部のツボに遠赤外線を照射するもので、波長の長い遠赤外線によって皮膚深部を暖め、同時にツボを押圧、刺激して血行を良好にし、眼精疲労を取り、自然の睡眠を誘うようしているだけで、視力を改善するという効果はなかった。また、遠赤外輻射体を作成しアイマスクに取着することも簡易にはできなかった。

【0004】視力の改善治療に関して、中国医学では、古来より氣功があらゆる病気の治療に積極的に取り入れられ、近視の予防、視力の改善を目的とする氣功法も数多く知られている。しかし、一般人が氣功法を正しく身につけることは容易ではなく、また現代人にとっては長期に根気よく続けることは困難である。本発明は、上記問題点を解決し、普通に着用するだけで眼精疲労の回復と同時に視力を改善することができるアイマスクを提供

することを目的とする。

**【0005】**

【課題を解決するための手段】視力を改善する氣功法のなかでも、「松静眼功」という氣功法が特に効果があることで知られている。「松静眼功」は、氣功により手のひらに集められた「氣」を、眼とその周辺に当てることと、眼の周辺にある絲竹空、太陽、四白というツボを押すことから成り立っており、そのやり方を学生に教え、毎日20分づつ2か月間にわたって実行させたところ、近視の241名中86%の学生が改善の効果があったということである。(株式会社わかさ出版発行、「わかさ」1995年5月号p62~63参照)

【0006】「氣」とは、一種の生体エネルギーであるといわれているが、最近の研究によれば、氣功法により手のひらから発する「氣」は主として赤外線、それも近赤外線の範囲が大部分であるといわれている。「氣」は人体から発するものであるから、体内から放射される熱の放射は、近赤外線を主とする赤外線と考えができる。本発明の立脚点とするところは、体内から放射される熱の放射、すなわち近赤外線を主とする赤外線を反射して眼とその周辺に当て、同時にツボを押圧刺激すると、上記「松静氣功」による治療と同様の効果があげられると言うことにある。

【0007】本発明の技術的課題は、基本的には、体内より放射される赤外線を反射するシート部材と、眼の周辺の特定のツボを押圧刺激するツボ押圧部材とを備えたことを特徴とするアイマスクを採用することによって達成される。

【0008】具体的な技術手段として、さらに、アイマスクとして使用の快適性を考慮し、眼およびその周辺に当接する吸湿性の当て布地と、該当て布地の背面に配置され、体内より放射される赤外線を反射するシート部材と、該シート部材の背面に配置され、眼の周辺の特定のツボを押圧刺激する通気性のある軟質の合成樹脂発泡体からなるツボ押圧部材と、通気性を有する表布地とを備えたアイマスクを採用することによって前記課題を達成することができる。

**【0009】**

【発明の実施の形態】次に、本発明のアイマスクを図面1~3を参照しつつ説明する。図において、1は、眼およびその周辺に当接する吸湿性の布地で、厚地の綿織物が用いられる。2は、赤外線を反射するアルミシート部材で、アルミ箔、またはアルミ蒸着フィルムが用いられ、当て布地1の背面に配置されている。3は、ツボ押圧部材で、4つのツボ押え(3a、3b、3c、3d)と台座4a、4bとからなり、ツボ押え3a、3b、3cは台座4aに、ツボ押え3dは台座4bに接着されている。

【0010】5は、ツボ押え部材を保持する通気性の保持シートであり、前記台座4a、4bはそれぞれ保持シ

ート5に接着されている。ツボ押え3a, b, c, d、台座4a, b、保持シート5は、いずれも通気性を有する軟質ポリウレタンフォームが用いられているが、合成樹脂素材については、連続気泡が形成された通気性を有する軟質の合成樹脂発泡体であれば如何なる樹脂素材であってもよい。6は、アイマスク外面の表布地であり、通気性のある織物が用いられている。

【0011】本発明のアイマスクは、前記当て布地1、反射層を形成するシート部材2、ツボ押え部材3を取り組した保持シート5、表布地6を重ね合わせてその周縁を縫布7で被い、2本の装着用の平ゴム紐8を所定の個所に取り付け、縫布7とともに重ね合わせた周縁を縫着することによって作成される。

【0012】次に、上記アイマスクの各構成要素に基づく作用効果等について説明する。前記アイマスクを着用すると、アルミシート部材2により人体より放射される近赤外線を主とする赤外線が反射されて、眼とその周辺を照射する。反射層を形成するシート部材の素材としてアルミニウムを採用することが好ましいが、反射率の高い素材、たとえば金、銀、銅などの蒸着フィルム、フラットヤーン織成物であってもよい。

【0013】赤外線の大部分は近赤外線の範囲であるが、波長の長い中赤外線などは、皮膚の深部まで入るので、皮膚表面だけでなく眼球部周辺の筋肉をもある程度暖め、血液の循環を良好にする。同時に眼周辺のツボも加温刺激されるので、眼精疲労の回復に効果的となり、更に特定のツボを加温と同時に押圧刺激するので近視の予防、視力改善にも効果がある。

【0014】ここで、眼周辺のツボと本発明のツボ押え3a, 3b, 3c, 3dとの関係について、図3、4を参照して説明する。図において、aは、晴明(せいめい)と呼ばれるツボで、目頭からやや鼻寄りにあるくばみである。bは、四白(しはく)と呼ばれるツボで、目の中央から真下に下ろしたところで、眼球を丸く取り囲む骨の上にある。cは、絲竹空(しちくくう)と呼ばれるツボで、まゆ尻の少し先、眼球を取り囲む骨のすぐ上にあるくばみである。dは、太陽(たいよう)と呼ばれるツボで、まゆ尻と目尻の中間から指幅二本分耳寄りのくばみである。

【0015】以上の4つのツボは、近視の予防とともに視力の改善に役立つツボと言われており、その他、眼の周辺には、攒竹(さんちく)e、瞳子りょう(どうしりょう)f、承泣(しょうきゅう)gと呼ばれるツボがあり、これらのツボは、眼精疲労の回復、近視の予防に効果があると云われている。

【0016】本発明では、ツボ押え3aは晴明aを、ツボ押え3bは四白bを、ツボ押え3cは絲竹空cを、ツボ押え3dは太陽dを押圧するように配設されている。顔の骨格の大きさ、形によって、ツボの位置は変わるので、ツボ押えaは鼻と目頭との間の狭い範囲に配

設しなければならないとしても、その他の押えは人によってツボの位置が変わっても押圧できるように押え面は広くとっている。またツボ押え3a, b, c, dと台座4a, bは、軟質の合成樹脂発泡体で形成されているから、ツボを弾力的に均一に押圧し、瞼には圧力がかからないようにしている。

【0017】このアイマスクを着用すると眼の周辺が暖かくなり、冬期でも発汗する。そのため皮膚に当接する当て布地1には、吸湿性の布地を用い、汗を吸収するようしている。素材として綿の織物、または繊物が良好であるが、吸湿性の不織布を用いてもよい。ツボ押圧部材3、保持シート5は通気性があり、また、表布地6には、通気性のある織物を使用しているので、アルミシート部材2が熱の吸収で加温されてもアイマスク内部は空気が流通するので、熱はアイマスク表面から放散される。表布地6は通気性を持たせるよう形成すればよく、その素材は、天然繊維、合成繊維のいずれでもよい。

【0018】本発明のアイマスクは、就寝時または休息時に普通のアイマスクと同様に着用し、休息時に着用するだけで眼の疲れがとれ、毎晩着用して寝るとその日の眼精疲労は確実に取れるとともに、毎日一定時間以上、または就寝時の着用を2カ月も継続して実行すれば視力を改善することができる。

【0019】上記の実施形態では、冬期はよいが、夏期においては温度が上がり不快感を与えるという問題が生じる。そこで、図5に示すようシート部材と台座の構成を変え通気性を改善した。アルミシート部材2をアルミ箔、蒸着フィルムに変え、アルミ蒸着フィルムをテープ状にスリットしたフラットヤーンを平板状に織成して織成物2aとし、台座を合成樹脂でもって格子網状に形成した弹性体(例えばポリエチレンスポンジ)4c, 4dとした。

【0020】織成物2aは平板であるため、赤外線を一方的に反射し、経緯のヤーンの間に隙間が形成されるので、通気性がもたらされる。更にシート部材の背面には格子網状体があるので、アイマスク内部は殆ど空洞状態となり、当て布地1から表布地6まで、アイマスク内の空気の流れがよくなり、対流によって熱が表布地6から放出されるので、夏期においても不快感なく着用することができる。

【0021】上記実施例ではアルミシート部材2を蒸着フィルムのフラットヤーン織成物としたが、アルミ箔、蒸着フィルムに一定の間隔を置いて通気孔を穿孔してもよい。

【0022】

【発明の効果】本発明は、上記のように構成されているから、次の効果を奏する。体内から放射される近赤外線を主とする赤外線を反射させることにより、眼球の周囲を加温して血行をよくするとともに周辺のツボを加温刺激し、眼精疲労を取るとともに、視力改善に効果ある特

(4)

特開平9-38130

定のツボを加温と同時に押圧刺激することによって、視力を改善させることができた。

【0023】遠赤外線を放射する遠赤外線輻射体が不要であるので、アイマスクの構造が簡単となり、製造が容易になった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のアイマスクの平面図である。

【図2】図1のA-A線を断面としたアイマスクの側面図である。

【図3】ツボ押えとツボの関係を示す説明図である。

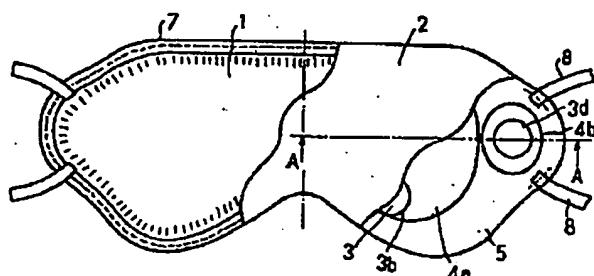
【図4】眼の周辺のツボの位置を示す説明図である。

【図5】別実施形態の一部断面説明図である。

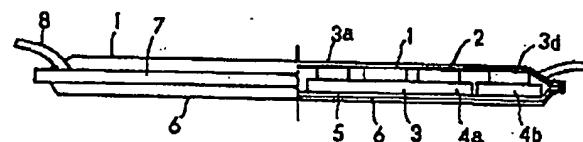
【符号の説明】

- |                |          |
|----------------|----------|
| 1              | 当て布地     |
| 2              | アルミシート部材 |
| 3              | ツボ押え部材   |
| 3a, 3b, 3c, 3d | ツボ押え     |
| 4a, 4b         | 台座       |
| 4c, 4d         | 弾性体      |
| 5              | 保持シート    |
| 6              | 表布地      |
| 7              | 縁布       |
| 8              | 平ゴム紐     |

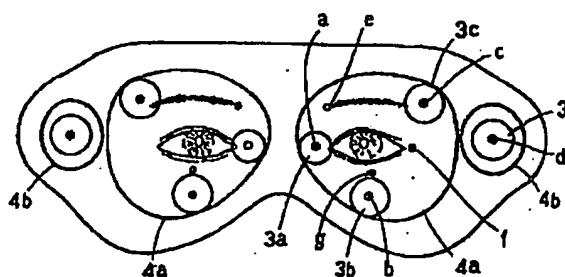
【図1】



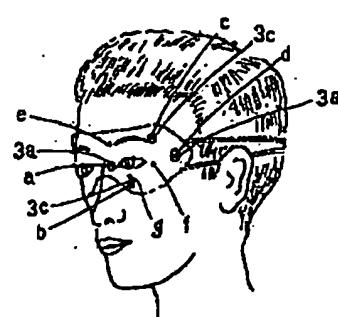
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

